令和８年４月 18 日

2)生滅性、標準と過不足

横山 俊一

2-1 理想と現況と方法、根拠と正当

何をもって「急進」か。意図する理想と現況認識があり方法の遅速と評価を生む。あまりに愚図な心象が増すと不快が高まり強い作為を投じる。
急進というよりも適正の判断が進む。急激な変動を投じる感覚にはなく妥当性を生む。多様や急進なる過不足の基準を用いるに際し根拠性をもって方法の正当性を生む。

2-2 局所と構造と性質

長らくの習慣から性質が作られる。容易に変わることの出来ない発想や思考と体質を生む。領域の中枢的な配置にあまりに歪性質があれば修復よりも取り除き新しい良質に入れ替える判断に妥当が映る。「治しますので」などという未熟な子供の反省と弁は不用であり切り替える態度が進む。責任の大きな配置に遠慮はいらない。愚図な気性は治らない。負の影響が広がり深まる事は放置できず入れ替えが進む。要領よく盗み改善したかの様子を演じその場を凌ぐ逃げの方法は許容されない。外形を繕い詐欺を働き不快と醜悪を増大させる。自浄性は期待できず新設の芽を入れ再生する。
このような転換の時期が生まれる。

2-3 正々堂々、歪なご奉仕、歪な構造と性質

堂々と筋道を外さず、然るべき工程を通し却下されれば何度も同じ対象にエネルギーを投じる不毛が生じる。却下の理由を示し理解と納得が生まれるか。理由を避け意味不明な態度を増し傲慢や暴力、略奪の疑念を高めるか。外界を良好に主導する性質は映りづらい。構造に依存を増し財や生を奪う真相が起こる。慢性化した肥満や不健全の構造を認識する。不良の構造にメスを入れ悪しき性質を削減させる。

2-4 生と正の促進、根本且つ全体大局性と個別特定性

愚図に何度も頭を下げお願いすることもなく良質との関わりを積極化する。異様にご奉仕する事は愚図の為にもならない。不用なストレスを蓄積せず良好な循環を進行させる。歪な構造と性質は改善されず悪性を蔓延らせる。健全な生滅性の反応が進められる。根本且つ全体大局観の適正を明示する

Created by Universal Document Converter

作用が生と正の促進に働く。停滞すると二次三次と理不尽と負の循環を深める。保守と革新なる間の観点を生む。

2-5 標準と過不足、領域性

公明正大な領域を望むか、歪な領域の利益と閉鎖性を求めるか。前者にあって持続的改善と成長の軌道と生の健全を存続する。理想と現況と方法の観点と文脈を表し健全な生命力を反映した意味内容の伝わる表現を生む。これを欠くと急進や停滞の判定が進む。自律と制御を欠く表現は意味不明と不快と対立を出現させる。標準観念と過不足を示す事を必要にする。

2-6 性質と文化

力任せに物事を進める性格と外界に理解や納得と共感を求め物事を作る性格に大別される。前者には人格性が映りづらく、非人間性や非社会性、無法者、ならず者の判定が下りる。性質上の欠陥を認識する。過剰な力を与えない制御に回る。

2-7 因果性、原因と結果、内面の道徳、内外を含む道徳

短絡的な二項の対立と構図について間の観点が要る。生の根源性が現れる、安直に良し悪しの評価を与え劣化が生じる。根本性の悪化した犯罪性と病理性が生まれる。生の健全を表す創造作法と運用の習慣を必要とする。

内面性を直接的に問い表す道徳性、外形性を示し内外性を含め適正を遂げる道徳性、前者は専門、後者は基礎の性格を生む。

2-8 専門性と基礎性、基礎と専門の相関

音楽や映画、芸能芸術、マスコミ、一過的評論はどちらかというと専門性に映る。基礎性の観点が土台にあって健全な自己認識と力加減と制御を生む。このあたりの交通整理が適正に成されず混同すると不健全に箍のかからぬ犯罪性と病理を招く。

2-9 基礎の構えと全体大局、物事の優先序列の適正

そもそも道徳なる観念は根本と基礎性が望まれる。この面に適正を欠くと物事の重要性と優先序列の歪性を広げる。異様に他国語や専門を優先する特殊な序列感覚を表す。見識が不足する教育機関や宗教団体、行政組織や政治屋、金満経営、偏差値偏重、肥満な世襲が生まれる。基礎の構えの悪い全体と部分が進む。芯の抜けたような意味不明な文化観に陥る。男系か女系かの観点に留まり生命と人間の性質に思慮が深まらず形骸的表層の欺

Created by Universal Document Converter

きと痩せた生と消滅性が進行する。ピント外れの議論と悪性を生む。中枢から入れ替えに狭まれる。

2-10 根源と産出と根幹、生命人間性

生滅性に対面し矛盾性が起こり思考と概念の過程が重なり、良好な領域観を形成し、精神と身体を繋げる活動と習慣が生まれる。根源と産出と根幹を有する健全な生命と人間性を認識する。性別を問う前段の観点を生む。

2-11 産出事物と過程性

何を産出するか、産出事物と過程の観点が分けられる。作る事物の相違と作る過程は同一性の観点が生まれる。どちらかというと根本性という場合には過程と習慣の側面を内容とした概念と適用が進む。大きな事業体と個々人や家族性という各種領域の広狭深浅の違いはあっても根本的な原理には同一性を映す。あらゆる領域の適正を問い作る根本要素について普遍的不変の標準性が現れる。内面と外形と内外性を含め一領域の適正を問い作る普遍的不変の真理を生む。領域の共通要素の適正を求める。基礎と全体大局観に広がり個別特定の配置が生まれる。盗みや詐欺、略奪という過程による結果を得る歪な習慣に生の不良が現れる。過程が思わしくなく、結果を得る習慣と性質に生の悪性を観測評価する。正々堂々とした過程をもって結果を得る習慣と性質に道徳・人格・文化なる概念を産む。異様に結果に偏り過程が狂うことへの是正に作用する。

2-12 入手と出口、中心と周辺と全体、根本の因果と直接間接の因果

盗みや詐欺、略奪で得た金は、おかしな用い方に使われる。直接間接の因果と負の性質が広がる。盗んでこい、騙してこい、奪ってこい、金をやるから。この手の金満経営に問題性の根が起こる。拝金過ぎと無機質性と機械性、破壊性、破綻性、消滅性の軌道を増す。健全な性質を求め領域の中枢性を構成し、全体性を作る大局観を遂げる。歪性を中心に配すると負の領域性を広げ深める。男女という性別と特徴を浮かべる以前に、生命人間の性質を問い、あるべきを絞り、領域の全体性を作る態度が進む。

2-13 標準観と評価性、哲学と科学と技術と文化性

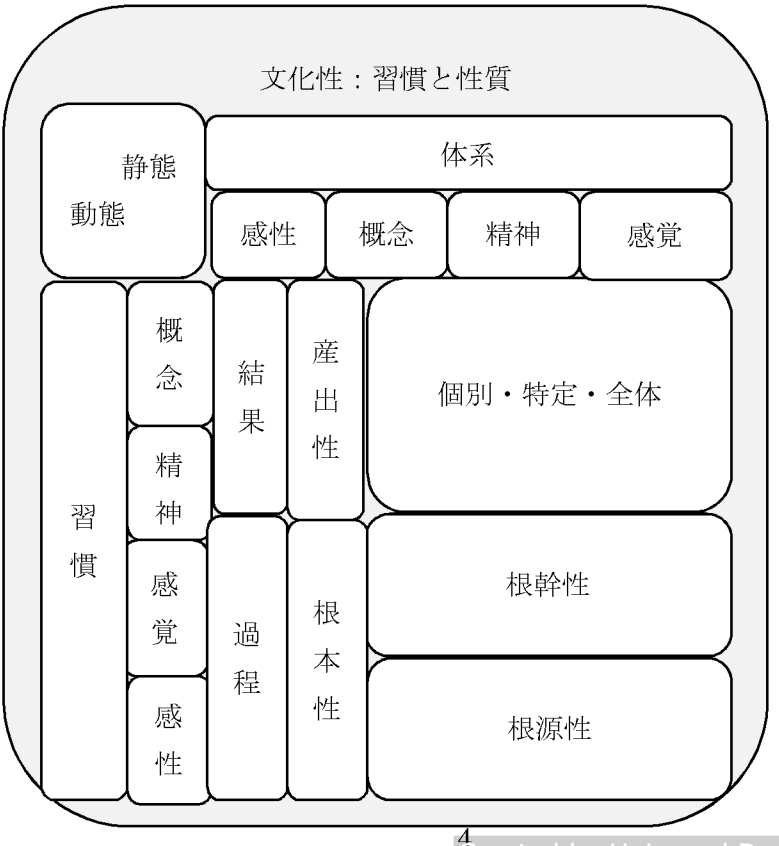
負を広げる性質か、正を広げる性質か、狩猟性、農耕性などという観点が起こる。再生産と持続の生を求めるには、どのような性質が望ましいか。

Created by Universal Document Converter

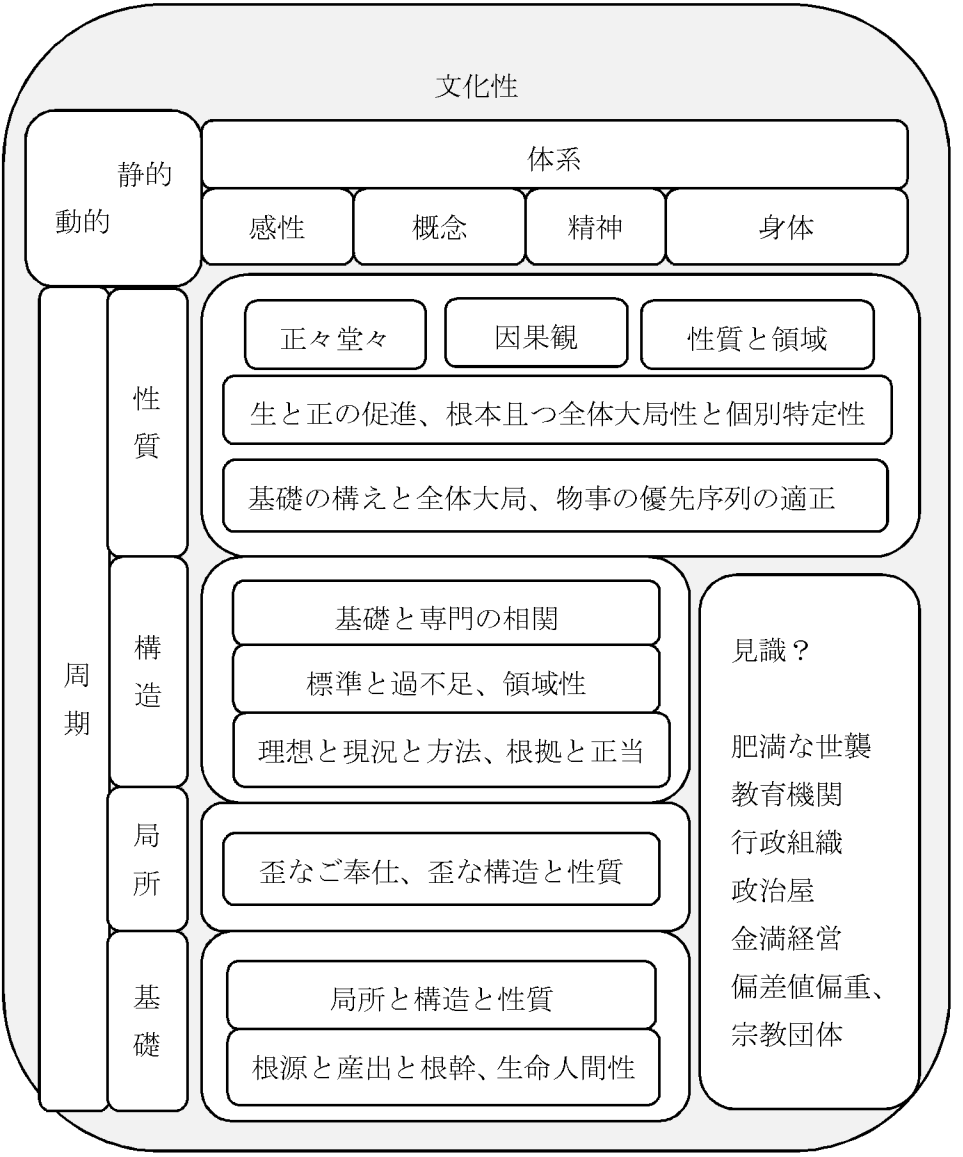
標準観念の集約に及び、対象の選定と観測と評価、序列の適正に作用する習慣を生む。良いや悪い、多様や画一、急進や停滞等々の評価性を生む。

2-14 犯罪性と病理性

基準性や根拠性を希薄化して安直に外界の良し悪しを一方的に判定する歪性が増す傾向が映る。情報技術力の発展に対して用いる人間の劣化という相関の均衡性を求め、哲学と科学と技術の文化性に向かう。戦争反対と声高に訴求しながら、足元や身近な観点では、盗みや略奪を図る病理性が起こることの問題性が生じる。頭と体と精神と感性の歪みの激しい病理質を伺う。概念上の歪性、論理の飛躍、論旨の錯綜不明瞭、言行の乖離、真逆、表裏の乖離、二重人格、情緒性の混乱、制御不能性、ヒステリー、虫食いと露出狂、中抜きピンハネ、盗聴盗撮、幼児虐待、人格、道徳不在、自律の喪失、このような生の破綻と負の性質を放置することのなき、基準と運用が進む。



Created by Universal Document Converter



Created by Universal Document Converter

標準性と過不足性

自律性・制御性

多様性、急進性

影響に照らした適正作法

快不快、善悪美醜、真偽、正負

意味内容の伝わる表現

理想性

現況性

方法性

局所現象

構造性

性格性質

性格・性質

力任せに物事を進める性格

理解や納得と共感性を求め物事を作る性格

慢性化した生の歪性

人格性を持つ生

ならず者、無秩序性、無法者

適正作法

閉鎖性、内向き性、内弁慶

公明正大、生の健全と持続

保守性

間の観点

改革性

滅の出現

間の観点

生の増進

道徳

専門的道徳

基礎的道徳

健全な主体性

産出

思考概念
意図する領域性

根幹

理想と現況と方法
観点と文脈、論理性

根源

生滅性

Created by Universal Document Converter